

表層型MHの研究開発 2025年度研究成果報告会 ポスター発表一覧(暫定版)

2025.12.25現在

実施項目	発表内容(発表タイトルは後日掲載)	発表者
全体概要+研究推進・成果普及・情報公開		
	M1. 全体概要+「研究推進体制、有識者委員会、研究成果報告会」	産総研
1. 生産技術の開発		
1.1 調査研究の評価と有望技術の特定	P1. 調査研究の評価と有望技術の特定	産総研
1.2 回収・生産技術		
1.2.1 要素技術開発		
1.2.1.1 採掘技術	P2. 大口径ドリル方式による設計指針の検討 P3. 設計指針に資するための原位置でのMH産状評価手法の開発 P4. 表層型MHを含んだ地盤の強度評価手法の開発 P5. 深海底浅層部の地盤情報に関する評価検討 P6. 採掘時の粒状体拡散に関する解析作業	三井海洋開発(株) 北海学園大学 北見工業大学 鳥取大学 常石造船昭島研究所(株)
1.2.1.2 分離技術	P7. MH分離後の泥水排出方法の調査研究 P8. ガスリフト方式による揚収制御技術の開発	五洋建設(株) 大阪大学
1.2.1.3 揚収技術	P9. 管内固気液三相流動場における超音波計測技術の開発 P10. 管内固気液三相流動場における超音波計測データ解析手法の開発 P11. 揚収時の流体流動制御に関するインヒビターの適用性検討	東京科学大学 室蘭工業大学 横浜国立大学
1.2.2 生産システムの検討	P12. 生産システムの検討 P13. 表層型MHの回収・生産技術に係る産総研の取組(仮)	産総研 産総研
2. 海洋產出試験に向けた海洋調査		
2.1 賦存状況把握		
2.1.1 精密地下構造探査	G1. 高分解能三次元地震探査(調査概要・結果) G2. 高分解能三次元地震探査(技術開発) G3. 海洋電磁探査再解析・統合解析	産総研 (株)地球科学総合研究所 産総研
2.1.2 熱流量調査	G4. 地下温度構造推定・MH安定/賦存領域下限深度の把握	産総研
2.2 海底の状況把握		
2.2.1 地盤強度調査・掘削調査	G5. 掘削調査概要 G6. 地盤強度・物性情報の把握と推定 G7. MH賦存深度・区間・含有量把握のための検層解析 G8. 掘削コア分析結果と胚胎域の地質・地化学 G9. 掘削コアの地質年代とSBP記録との対比	産総研 産総研 産総研 産総研 産総研
2.2.2 海底現場状況調査	G10. 航走型AUV潜航調査による詳細海底地形地質調査 G11. ROV及びホバリング型AUV潜航調査による海底観察・海底画像撮影と底質分布 G12. 海底観測機器設置・長期モニタリング	産総研 産総研 産総研
2.3 実施場所の検討	G13. 「要素技術にかかる海洋での技術検証」の実施場所の特定に向けた検討	産総研
3. 環境影響評価		
3.1 環境影響評価手法の検討		
3.1.1 技術・社会動向調査	E1. 技術動向及び法的・社会的動向	日本エヌ・ユー・エス(株)
3.1.2 賦存海域の特性解明	E2. 生物への影響(擬似現場試験) E3. 海底のメタン動態 E4. 微生物マットにおける元素動態と底生生物群集の特徴 E5. 環境影響予測モデル E6. 遺伝子解析による生物群集の多様性・連結性	(公財)海洋生物環境研究所 産総研 産総研 (株)サイエンスアンドテクノロジー 産総研
3.2 海域環境調査		
3.2.1 環境パラメータ調査	E7. 環境パラメータ調査概要	産総研
3.2.2 環境ベースライン観測・環境モニタリング手法	E8. シャドウグラフカメラによる水柱観測 E9. 掘削影響調査(生物への影響: マクロ・メイオベントス) E10. 掘削影響調査(海底マッピング: 上越沖) E11. 掘削影響調査(生物への影響: 酒田沖) E12. 掘削影響調査(再堆積層) E13. 海底機器観測(セディメントラップ)	(国研)海洋研究開発機構 (株)日本海洋生物研究所 いであ(株) 産総研 産総研 産総研/東京大学大気海洋研究所